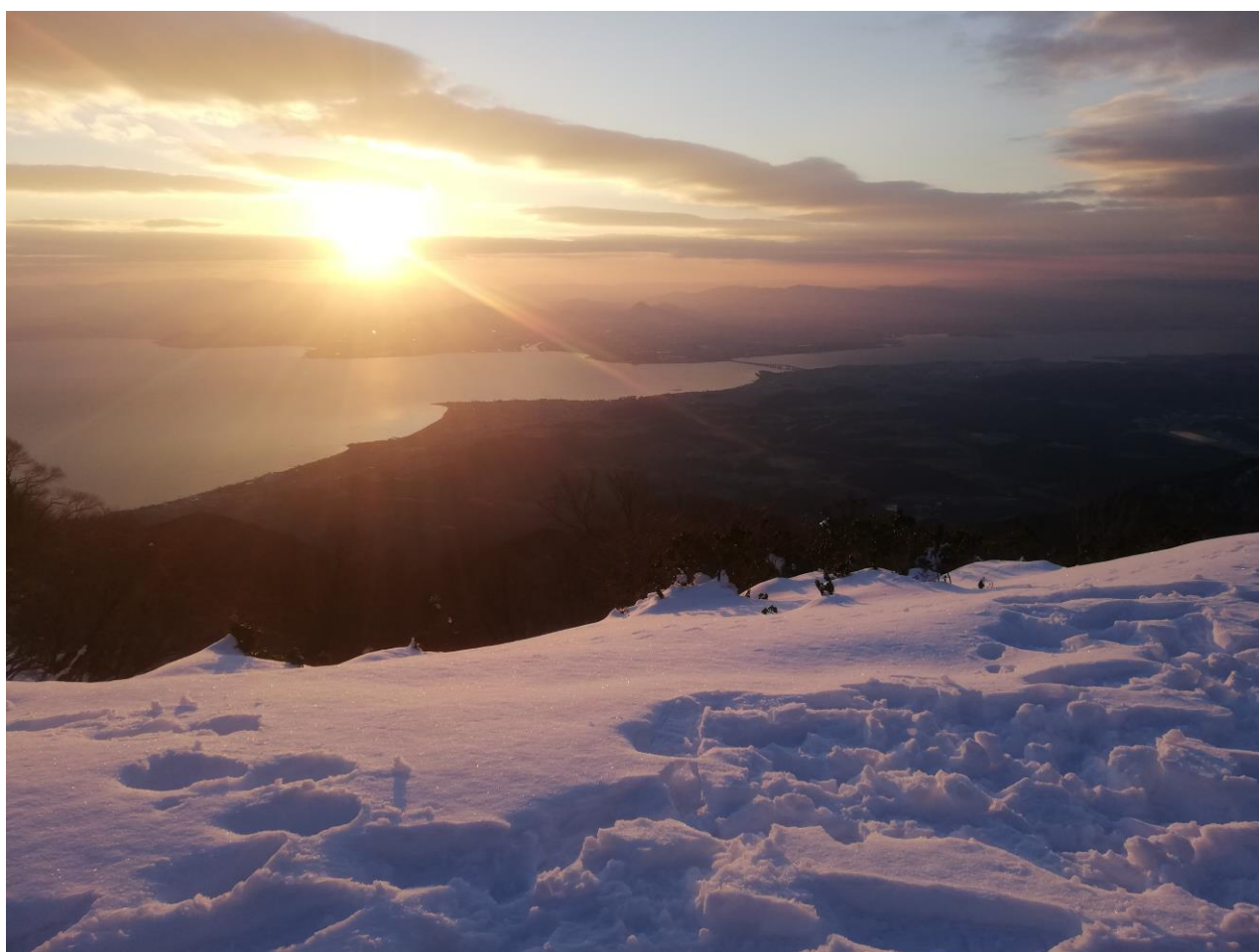


滋賀県勤労者山岳連盟

第47回定期総会

議案書



2023.1. 比良・権現山から

2023年3月5日(日)
大津市ふれあいプラザ

第 47 回定期総会次第

13:00	受付開始	受付
13:30	開会宣言 開会の挨拶	司会:山元 豊理事 友永芳和会長
	来賓挨拶 祝電、メッセージ紹介	浦添 嘉徳 氏 (全国連盟会長) 司会:山元 豊理事
	議長団選出 総会役員選出 議事運営委員報告 資格審査委員報告 第4号議案提案 選挙管理委員報告	司会:山元 豊理事 議長団 議事運営委員 資格審査委員 宮内眞子理事長 選挙管理委員
	第1号～第3号議案提案	宮内眞子理事長
	休 憩	
13:40	質疑討論	議長団、担当理事、宮内眞子理事長
	資格審査委員報告 採 決	資格審査委員 議長団
	選挙管理委員報告	選挙管理委員
	休 憩(第1回理事会開催)	
	第1回理事会報告	2023 年度理事長
	議長、総会役員退任	議長団
	新旧役員挨拶	司会:山元 豊
15:30	閉会の挨拶 閉会宣言	友永 芳和 会長 司会:山元 豊理事

第1号議案 2022年度活動報告、会計決算報告および会計監査報告

(1)2022年度活動報告

2022年度活動報告は専門部ごとにP.6,8に掲載しました。見開き左ページに2022年度活動報告を、右ページに2023年度活動計画案(第2号議案)を配置して、同じ専門部の活動報告と活動計画案を比較して読めるようにしています。2022年度の代表者会議は2回(2022年11月 2023年2月)、出席型理事会は、代表者会議兼理事会2回・定期総会兼理事会1回の計3回開催しました。(4月・5月・7月・1月1回 2月1回にZoom併用会議5回 8月・12月休会) 代表者および理事の会議出席状況は資料集P.1を参照してください。また、会議記録は資料集P.5に掲載しました。

(2)2022年度会計決算報告および会計監査報告

2022年度会計決算報告および会計監査報告はP.10に掲載のとおりです。見開き左ページに2022年度会計決算報告および会計監査報告を、右ページに2023年度会計予算案(第3号議案)を配置して、決算報告と予算案を比較して読めるようにしました。P.12.に、本会計に連結するその他の会計決算報告/清掃登山会計決算報告を掲載しました。

〔総括報告〕

紙面に限りのあることから、議案書では主要な6点に絞って報告します。その他の事項に関しても忌憚のない質問と意見をお待ちしています。

1. 登山をめぐる情勢

1) 登山をめぐる社会情勢

パンデミック3年目となる2022年の国内コロナ感染者数は2500万人を超え、2021年末の173万人から爆発的に増加した。ワクチンの接種は進んでいるが変異ウイルスにより、鎮静にはほど遠い状況が約一年続いている。2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻も長期化し停戦交渉すら目処が立っていない。欧米のインフレ、ロシアへの制裁、円安などにより生活必需品が値上げされ、国内経済がコロナ禍から立ち直れない中、市民生活を窮地に追いやっている。日本政府は海外からの渡航客を受け入れ全国旅行支援を開始したが、コロナ感染が続く中、インフルエンザの同時流行も懸念され、医療機関のひっ迫など不安な社会生活を余儀なくされている。

2) 国内登山の情勢

コロナ禍のため対面での会議や交流が制限される中、3月には山岳四団体で「ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対する声明」を出し、12月には登山届出システム「コンパス」の共同運用も開始した。山小屋でのコロナ感染も散見したが、夏山シーズンや連休中など予約が満員となる宿泊施設も多く、登山者数はコロナ前とほぼ変わらなくなっている。それに伴い、山岳遭難も増加し、死亡事故も多発している

2. 組織強化と拡大の活動

2023年1月末の滋賀県連の会員数は171名で前年同期に比べて7名の増加となった。(資料集P.2参照)。滋賀労山の活動を継承するためにも、会員拡大が今年も最優先課題と考

えている。コロナ対策を考慮し、2023年度も新たな試みに前向きに挑戦していく。また、次世代会員を迎え入れられる組織体制の改革にも取り組んで必要がある。全国連盟の会員数は2022年11月末の組織数調査で562団体、16,814名となり、前年にくらべて15団体減、292名の会員減となりました。

3. 労山のコロナ対応

オンラインと対面のハイブリット型会議と対面のみでの会議・集会・交流会も増やしてきたが、マスクの着用と対面での距離の確保、消毒の徹底などにより、集団感染は発生していない。全国連盟事務所も在宅勤務、時間差出勤、ワクチン接種促進とPCR検査を利用することにより、事務所の開所を3年間時間短縮することもなく活動できた。

4. 主要行事

1) 清掃登山

2022年の清掃登山は、5月28・29日、6月4・5日の4日間、県内8山域12コースで実施した。コロナ禍であったが、事故もなく無事終了した。4日間の参加人数は168名(会員99名 一般大人61名 子供8名 前年合計186名)、登山道から回収されたゴミ量は、合計171.95kg(前年187kg)でした。実施報告書を自治体・企業に送りました。自治体(米原市・竜王町・多賀町)からの補助金、協賛企業(「近江湖南アルプス自然休養林」運営協議会・公益財団法人 滋賀県環境事業公社・江若交通株式会社・アルピナBI(株)びわ湖バレイ事業所・帝産湖南交通株式会社)からの支援金等の協力をいただきました。なお、全県的に自治体と連携して清掃登山を実施しているのは全国でも滋賀県だけである。

2) 登山祭典

2022年度の登山祭典は10月23日(日)に6会場で行われ、会員62名、一般37名、計99名の参加があった。(2021年 会員69名、一般24名 計93名) 登山祭典は、山岳会に入って山登りをすることの楽しさや安全な登山を、未組織登山者に知ってもらう良い機会、広く一般参加を呼びかけていく必要がある。

3) 交流山行

3年目になる交流山行を企画7回したが、悪天のため1回中止になった。総参加会員39名企画は、期間7月～1月とした。他会の山行にも参加できる機会になっている。次年度も、一般参加をHPで呼び掛けて交流山行を継続していく。

4) 講習会・初級登山教室・座学入門登山教室を企画して実施

○講習会 3/5 安全登山の講習会

「ハイキングの楽しさ」「読図は面白い」「山岳会に入るメリット」

○会員対象「初級登山教室」4月～1月 座学10回・実技8回 受講生5名

○一般対象「座学入門教室」4月～11月 座学8回

5. 遭難対策の現状と課題

1) 国内の山岳遭難概況

2021年の警察庁による山岳遭難者数は3,075名(前年+378人)。発生件数2,635件(前年+341件)発生者数・遭難者数共に増加している。緊急事態宣言など山に行けない2020年の

期間を経過し活動地域が3密を避けるために都市郊外の地域に変化した事アルプス方面に向かう登山者が増えた事が原因と考えられる。死者・行方不明者は283人(前年+5)となり微増しているが、高止まりの状況で推移している。死亡・行方不明者の283人の内28名(前年-9人)が行方不明で前年より減少した。負傷者は1,157人(37.6%)。無事救出1,635(53.2%)。遭難者の内60歳以上が1,486人と全体の48.3%。死亡・行方不明者では60歳以上が203人と全体の71.8%を占めている。40歳以上の中高年の登山志向は継続し、こうした傾向は過去5年間変わってなく65歳以上の前期高齢者の遭難者数も増加傾向にある。遭難の原因は、道迷いが最多で1,277人(41.5%)で転倒、滑落、病気、疲労、転落が続いた。2021年は転倒(510人16.6%)の事例が多かったが、その他として悪天候32件、野生動物の襲撃も27件あった。

2) 労山内の山岳遭難概況と対策(数字は12月5日現在)

2022年は死亡・行方不明者が7名と、このコロナ禍の中で2021年より3人増加した。事故者数は334人でコロナ禍の状況下でも増加した。死亡・行方不明者では、冬期1・2月に3人、心疾患で1人、登攀で1人、沢登りで2人となり前年を大幅に超えた。冬期の事故については、総合的な力量に問題があると考えている。天候の判断、個々の体力、技術等が重複した結果が事故に繋がった。心疾患や脳疾患による事故も会員の高齢化に伴い今後各会員が気を付ける事がひとつようである。岩や沢での事故については、原因が検証出来ていない事例もあり今後の教訓を占めれないところもあるが、自身の力量を過信せず基礎技術の確認と慎重な計画・行動を心掛ける事が重要だと思っている。事故の傾向として2021年より多くなった事は、下山時や下り坂での転倒が増加している事である。以前より、転倒事故の割合は増加していたが、2022年は、事故全体の中での比率は高くなって今後転倒事故の対策を検討・実施していく事が求められている。

滋賀労山では、2022年1月～12月の期間に事故一報を2通提出した。

滋賀県内の2022年の山岳遭難は、発生件数86件、死者4人、行方不明1人、負傷者38人、無事救出66人。登山届を提出していたのは22件でした。

比良、伊吹、鈴鹿、野坂等の山系からなる県内の山岳は、伊吹山(1,377m)を最高峰に、いずれも1,000m級の山で、京阪神、中部方面に近く、交通アクセスに恵まれていることから人気があり、毎年多くの登山者が訪れています。また、中高年登山者の日帰りコースやツアー登山者の体験コースとしても注目を浴びている登山スポットとなっています。しかし、湖国の山々を「たかだか標高1,000メートル級」と侮ることは禁物で、分岐の多い山域、踏み跡の不明瞭な山域、長時間の行動を要する山域、危険な個所等も決して少なくありません。令和4年中は86件の山岳遭難が発生していますが、その多くが過信、軽信や無知等によりコース確認や装備品の準備不足や油断が招いたものと考えられます。

6. 登山時報・全国連盟ニュースに関して

機関誌「登山時報」は、2022年12月574号が月刊としては最後の発行となった。

次年度からは、季刊誌に移行決定。HPでは閲覧可能、購読も年間1000円で個人申し込みになった。労山ニュース「労山ジャーナル」としてHPにアップ、申し込めば、各会・クラブ等に、紙媒体で郵送することになった。

第2号議案 2023 年度活動計画

組織部を始めとする各専門部の 2023 年度の活動計画案を P.7,9 に掲載しました。
自然保護憲章の第 1 章「登山活動を通して、自然を見る目を養い、自然の変化を捉え、山と地球規模の環境保全に寄与します」との原点を軸に各部とも活動します。

第3号議案 2023 年度会計予算案

2022 年度活動報告をふまえ、2023 年度会計予算案を P.11 に提案します。

第4号議案 2023 年度役員選出

滋賀県勤労者山岳連盟規約第10 条1に基づき、2023 年度役員を選出を提案します。選出すべき役員は、会長1名、副会長1名、理事 11 名前後、会計監査2名です。

2022年度活動報告

部 門	
組 織	<p>○会員増大に向けて</p> <p>滋賀県内でもコロナ禍での行動制限が緩和され、いろいろな世代の方々が個々にアウトドアを楽しんでいる。ただコロナ感染者は県内においても増減を繰り返し完全な安心にはほど遠いのが現状。滋賀労山 総会員数は171名、(2023年1月末) 前年同期と比較して5名の増。各会会員の平均年齢も高年齢化し、各会の例会、個人山行、交流山行などの県連行事に加え、ホームページでの発信も行ってきたが、なかなか会員の増加につながらなかったのが反省点。来年度はさらに発展していきたいと考えている。</p>
	<p>○「座学入門教室」 チラシ作成のうえ広く参加を呼びかけた。</p> <p>○登山祭典</p> <p>10月23日(日)、好天のもと県内山城の6会場で開催。参加者(6団体)は合計99名(会員62名・一般37名)(昨年比+6)でした(資料集 P ~参照)。</p> <p>○交流山行</p> <p>交流山行計画の「発信シート」(各会) ➡ 「交流山行」として県連ニュース掲載 ➡ 参加募集 ➡ 交流山行の実施 ➡ (報告・感想) 県連ニュースに掲載。各例会とは違う雰囲気的交流山行の楽しさを味わうことで新しい仲間、会員拡大につなげるようにした。企画 <u>8回</u> 実施 <u>5回</u> 会員参加人数<u>38名</u> 来年度はさらに回数、内容の充実を期待したい。</p>
教育・遭対	<p>○登山教室、講習会などの開催</p> <p>2022年度初級登山教室(受講生5名、座学10回、実技8回)実施できた。座学入門登山教室(8回、会員外延べ36名、会員のべ17名参加)実施できた。</p> <p>○遭難対策訓練</p> <p>コロナ禍の影響により開催を見合わせた。</p> <p>○第41回近畿ブロック搬出講習会4月3日実施 滋賀から「岩コース初心者」1名参加</p>
自然保護	<p>○第50回クリーンハイク(清掃登山)</p> <p>5月28日(土)、29日(日)および6月4日(土)、5日(日)に 県内8山城、11コースで計画して実施した。参加者は168名(会員99名、一般大人61名、子供8名)で、回収したゴミは171.95kgでした(資料集 P~ 参照)。</p> <p>○登山道の放射線量測定</p> <p>昨年度に引き続き放射線量測定をした。11/26に高島トレイル赤坂山～寒風、1カ所のみ実施。結果を比良雪稜会実施分と併せて 全国連盟自然保護部へ報告した。(資料集 P ~ 参照)。比良雪稜会は、11/3にイン谷～八雲ヶ原～荒川峠～中谷出合い～金毘羅神社の登山道で11カ所で測定した。(2014年度から実施今年度9回目)</p> <p>○近畿ブロック自然保護委員会</p> <p>近畿ブロック自然保護委員会は2ヶ月ごとにZOOM会議で開催、参加した。</p> <p>○第25回労山自然保護講座</p> <p>7月9日(土)～10日(日)県立比良山岳センターで一日目は日本自然保護協会若松氏の講演と地方連盟からの報告等。二日目はバスチャーターにより美浜新庄ウインドファーム事業計画山城を登山・視察(県連から13名参加)</p> <p>○滋賀県域や近辺等でのメガ風力発電への対応</p> <p>滋賀県域の山地で「余呉・南越前ウインドファーム事業」は平成30年から事業計画の手続きがされ、手続きが進行中であり、これとは別に「三十三間山風力発電事業」が令和4年手続きが開始された。両事業とも貴重な山岳の自然環境や景観等を損なうことは間違いないことであり、先に計画された美浜新庄事業も含めて地元山岳団体として、県連メーリングリスト等により問題意識の共有の取り組みを試みた。</p>

2023年度活動計画(案)

部 門	2023年度活動計画案
組 織	<p>○会員増大に向けて</p> <p>県連会員の高年齢化に伴い、会員数減少が予測されるなか今年度も会員数増大に向け取り組んでいく。現状アウトドアブームで個人や家族でのキャンプや登山は確実に増えており気運は上昇傾向にある。そのことを各会や県連はHPやSNSを通じて呼び込むことができると考えている。年齢の高い方には健康や趣味をキーワードに、若い人には楽しさに反応するようなSNSやホームページでの発信を県連として取り組んでいくので、各会も活気ある楽しい発信をお願いしたい。</p>
	<p>○座学入門登山教室は、今年度は実施しない。</p> <p>○登山祭典</p> <p>各会の協力のもと、県内の山域を会場とした登山祭典を10月22日(日)に開催する。今年度もチラシを作成し広く一般募集をしていく予定。</p> <p>○交流山行</p> <p>県連会員がどの会の山行にも楽しく参加できるシステムが「交流山行」として出来た。あとは毎月の各会の例会と同じように「交流山行」を計画していただき、今まで躊躇していた会員もどんどん参加できるよう、各会に楽しい企画をどんどんとお願いしたい。</p> <p>○山岳会インスタ、チラシ配布等、会員拡大に努めます。</p>
教育・遭対	<p>○登山教室、講習会などの開催</p> <p>沢登りや、クライミングなど各会で開催するのが困難な講習会などを計画する。また、他県の労山と協力した教育を図る。</p> <p>○遭難対策訓練</p> <p>救護に関する訓練を検討する</p> <p>○2023年度初級登山教室を内容を精査して昨年に引き続き実施する。</p> <p>○第42回近畿ブロック搬出講習会(4月2日) (持ち回り担当 京都・滋賀)</p>
自然保護	<p>○第51回クリーンハイク(清掃登山)</p> <p>6月4日(日)に県内主要山系で、県連 加盟各会および地元自治体、関係諸団体の協賛・後援を頂いて実施する。登山道周辺の清掃活動のみならず、広い意味での自然保護を指向したハイキングとして実施する。</p> <p>○登山道の放射線量測定</p> <p>引き続き放射線測定を実施する。県連ニュースを通じて、会員参加を呼びかけて、関心を持っていただけるように努力する。</p> <p>○近畿ブロック自然保護委員会</p> <p>近畿ブロック自然保護委員会は、ZOOM会議若しくは実地会議に参加して情報交換等行う。</p> <p>○第26回全国自然保護講座</p> <p>日程未定 一名以上参加する。</p> <p>○滋賀県域や近辺でのメガ風力発電への対応</p> <p>余呉・南越前ウインドファーム事業」「三十三間山風力発電事業」および「美浜新庄風力発電事業」建設のための手続きやその反対のための活動は、他団体とも連携し会員に問題を共有すべく努力する。余</p>

2022年度活動報告

部 門	
財 政	<p>○健全財政の維持</p> <p>前年度に予定していた県連としての活動がコロナ禍で十分にできなかったこと、また、費用負担の大きかった賃貸事務所をスモールオフィスに変更するなど経費削減に努めたことで運営資金に余裕が生まれた。余剰となった活動費は、その一部を期初に各会に返還した。</p>
機関紙	<p>○県連ニュースの継続的発行</p> <p>県連ニュースを毎月発行した。担当者の編集負担の軽減策としてPDFの連結方式での編集にした。□</p> <p>機関紙を全会員で発行するとの観点で、昨年引き続きリレーエッセイは各会に執筆をお願いした。(4月理事長、5月湖南岳友会、6月比良雪稜会、7月彷徨倶楽部、8月ちごゆり山歩会、9月シャクナゲ遡行クラブ、10月滋賀山友会、11月湖南岳友会、12月比良雪稜会、1月会長、2月山の会オフトレイル、3月滋賀山友会)</p> <p>登山祭典、交流山行などの企画は山行記録の投稿が多くなり紙面が充実したものになった。また、会員の山行記録の投稿もあり、県連ニュースとしての内容が充実したものにできた。</p>
ホームページ	<p>○HPを活用して会員拡大に努めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県連ニュースに同期した更新をした。 2. 県連活動の「清掃登山」「登山祭典」「交流山行」の募集を掲載して、一般参加を募った。
クライミング研究会 滋賀 (CSS)	<p>○個人の発案に基づく山行の実施</p> <p>研究会創設の趣旨に基づき、個人の主体性を尊重した山行を安全に留意して実施しました。(山行一覧表参考)</p> <p>○登山文化と登山技術の普及に寄与する活動</p> <p>ON LINEによる学習会および講演会の開催を検討しましたが、費用対効果の観点から多人数で円滑に使用できるアプリケーションの選定には至りませんでした。</p> <p>○開かれた研究会</p> <p>県連ニュースで活動内容を広報しました。</p>
山スキー ネット滋賀	<p>○安全なスキー山行の実施</p> <p>ゲレンデスキー・山スキーにおいて天候・積雪状態などに留意し、安全なスキー山行に努めました。(山行一覧表山行)</p> <p>○山スキー教室の実施</p> <p>山スキー初心者から経験者までを対象に山スキーを安全に楽しむため山スキー教室を行いました。</p>

2023年度活動計画(案)

部 門	2023年度活動計画案
財 政	○健全財政の維持
	各会の会員数の減少に伴い連盟費も年々減少傾向にある。費用対効果を厳格に見極め有効に連盟費を使用することで、県連の活動を資金面からバックアップするとともに、引き続き経費削減に努め健全財政を維持していく。
機関紙	<p>○県連ニュースの継続的発行</p> <p>県連ニュースを毎月遅滞なく発行する。毎月15日原稿締め切り、20日発行・配信する。そのため原稿の執筆基準は守っていただくよう、随時願います。原稿はワード(エクセル)とPDFで、送信先は、理事長及び機関紙担当(2名)に願います。</p> <p>機関紙を全会員協力のもとに発行継続する。昨年同様(4月理事長、5月湖南岳友会、6月比良雪稜会、7月山の会オフトレイル、8月ちごゆり山歩会、9月シャクナゲ遡行クラブ、10月滋賀山友会、11月湖南岳友会、12月比良雪稜会、1月会長、2月山の会オフトレイル、3月滋賀山友会)に願います。リレーエッセイ・写真担当共 裏表紙に次月号担当会を記載。</p> <p>県連ニュースとしての内容を充実させるため、随時会員に投稿を願います。</p>
ホームページ	<p>○HPを活用して、会員拡大に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山岳会に所属するメリットをアピールする内容にしていく。 2. 「体験山行」案内を県連HPでお知らせする。 3. 県連ニュース発行に同期した更新を行う。 4. 県連活動を知ってもらうために、「清掃登山」「登山祭典」「交流山行」案内を掲載し、会員拡大に努める。 5. 入会希望者対象の「イベント」「講習会」等の案内を積極的に広報し、会員拡大に努める。 6. 各会からホームページへの要望があれば、できる範囲で対応する。
クライミング研究会 滋賀(CSS)	<p>○新たにCSS会員の登録を募集して活動する</p> <p>○はっきりした会員名簿がありませんので、改めてCSS会員を募集し、メンバーを再登録して活動をしていきます。新メンバー同士でメール会議を行い年間の活動計画を立てます。</p>
山スキー ネット滋賀	<p>○安全なスキー山行の実施</p> <p>ゲレンデスキー・山スキーにおいて天候・積雪状態などに留意し、安全なスキー山行に努めます。</p> <p>○山スキー教室の実施</p> <p>山スキーを安全に楽しむため山スキー教室を行います。スキー技術の向上と併せてビーコン操作練習や弱層テストの実施など雪崩事故を防ぐため安全管理に努めます。</p>

収入の部				支出の部			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
前期繰越金	656,467	656,467		全国連盟費	277,440	277,440	
県連盟費	808,800	818,400		連盟費	255,840	255,840	130×12×164
連盟費(164→166)	787,200	796,800	400×12×166	年会費	21,600	21,600	6×3,600
年会費	21,600	21,600	3,600×6	近畿ブロック	5,740	5,740	35×164
雑収入	0	5,487		専門部費	108,000	183,183	
自然保護講座協力金	0	5,487		教育・遭難対策	50,000	160,106	滋賀リビング案内広告・講習会補填
	0	0		組織	30,000	2,650	
推進費(労山基金)	16,400	13,800		機関紙	8,000	18,000	HP契約
利息	0	5		自然保護	20,000	2,427	
				会議費	141,000	99,571	
				全国連盟他	6,000	6,000	
				近畿ブロック	10,000	2,280	
				県連総会	25,000	44,430	会場費・印刷費・スタッフ弁当代 他
				理事会・各会代表者会	100,000	46,861	ZOOM契約 他
				講習会参加補助	100,000	42,800	
				事務局費	44,000	41,594	
				事務消耗品費	25,000	26,694	スーム会議用スピーカー
				図書費	4,000	2,340	
				事務局費	15,000	12,560	労山カレンダー 滋賀民報
				通信費	25,000	17,980	
				電話料	20,000	15,910	
				郵送料	5,000	2,070	
				事務所維持費	66,000	67,200	
				家賃	66,000	67,200	56百円(ネット環境)×12
				その他	-	-	
				遭難対策基金積立	16,400	13,800	
				予備費	10,000	-	
				各会還元	393,600	393,600	期初送金
				次期繰越金	294,487	351,251	
合計	1,481,667	1,494,159		合計	1,481,667	1,494,159	

〔特別会計(積立金・預け保証金等)〕

項目	前期繰越金	当期取崩し金	当期積立金	当期利息	残高
事務所積立金	316,074	0	0	2	316,076
事務機積立金	316,891	0	0	2	316,893
遭難対策積立金	1,092,649	0	13,800	10	1,106,459
清掃登山特別会計	381,106		3,523	2	384,631
合計	2,106,720	0	17,323	16	2,124,059

会計監査報告 監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。

2023年 2月 日

会計監査

第3号議案:2023年度会計予算案

単位(円)

収入の部		支出の部				
科目		科目	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算	対前年度予算比
前期繰越金	351,251	全国連盟	277,440	277,440	280,560	101.1
県連盟費	818,400	連盟費(130円×166×12)	255,840	255,840	258,960	101.2
県連盟費(400円×12×166)	796,800	年会費(3,600円×6)	21,600	21,600	21,600	100.0
年会費(3,600円×6)	21,600	近畿ブロック会費@35円	5,740	5,740	5,810	101.2
雑収入	0	専門部費	108,000	183,183	200,000	185.2
	0	教育・遭難対策	50,000	160,106	150,000	300.0
	0	組織	30,000	2,650	20,000	66.7
推進費(労山新特別基金)	14,200	機関紙(HP契約)	8,000	18,000	10,000	125.0
		自然保護	20,000	2,427	20,000	100.0
		会議費	141,000	99,571	140,000	99.3
		全国連盟、他	6,000	6,000	10,000	166.7
		近畿ブロック	10,000	2,280	10,000	100.0
		県連総会	25,000	44,430	50,000	200.0
		理事会、代表者会(ZOOM)	100,000	46,861	70,000	70.0
		講習会参加補助	100,000	42,800	100,000	100.0
		事務局費	44,000	41,594	45,000	102.3
		事務消耗品費	25,000	26,694	25,000	100.0
		図書費	4,000	2,340	5,000	125.0
		事務局費	15,000	12,560	15,000	100.0
		通信費	25,000	17,980	10,000	40.0
		電話料	20,000	15,910	5,000	25.0
		郵送	5,000	2,070	5,000	100.0
		事務所維持費	66,000	67,200	68,000	103.0
		家賃(5,600円/月)	66,000	67,200	68,000	103.0
		その他	0	0	0	0.0
		遭難対策基金積立	16,400	13,800	14,200	86.6
		予備費	10,000	0	0	0.0
		各会還元(400円×6×164)	393,600	393,600	0	
		次期繰越金	294,487	351,251	320,281	-
合計	1,183,851	合計	1,481,667	1,494,159	1,183,851	79.9

本会計に連結するその他会計決算報告

第50回(2022年)清掃登山收支決算書

収入の部			支出の部		
科目	金額(円)	摘要	科目	金額(円)	摘要
補助金	55,000	実績報告後受領	宣伝費	5,880	案内ちらし、しおり、リーダーの手引き作成
広告収入	10,000	岩と雪	備品代	4,308	ゴミ袋、土嚢袋、軍手等
会員外保険代	6,900	@100	事務消耗品	3,303	インク代他
			通信費	12,596	案内ちらし、しおり等送料
			交通費	34,590	
			保険料	7,700	傷害保険
			余剰金	3,523	
合計	71,900		合計	71,900	

*参加者168名(会員99名、一般66名、子供8名)

2022年度安全対策費決算報告

■ 雪山基礎講座／ステップアップ登山講座

単位(円)

収入				支出			
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
受講料	48,000	32,000	2,000円×16名	装備費	4,000	3,000	註1
安全対策費	70,000	70,000	全国連盟	交通費	48,000	46,000	註2
				講師料	64,000	48,000	註3
				資料作成費	2,000	5,000	註4
合計	118,000	102,000		合計	118,000	102,000	

・2022年2月～11月実施(雪山基礎講座3回、ステップアップ登山講座3回、受講者16名)

註1:テーピングテープ、補助ロープ

註2:講師交通費補助(駐車場料金、講座開催地の下見経費含む。)

註3:@8,000円×6回

註4:YAMAP登録料(3,480円)、コピー代

■ 講習会・座学入門教室・初級登山教室 一括報告

単位(円)

収入				支出		
科目	予算	決算	備考	科目	決算	備考
前年度繰越分	57,215	57,215		1.初級登山教室	224,860	
安全対策費	30,000	30,000	全国連盟	2.座学入門教室	44,141	
初級登山教室	52,000	52,000	受講生5名	3.講習会	9,800	
座学入門教室	36,000	36,000	延べ34名			
補填	103,586	103,586	本会計予備費			
合計	278,801	278,801		合計	278,801	

1.2022年度初級登山教室

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
受講生	52,000	52,000	受講生5名	交通費が引代	72,940	4人
安全対策	87,215	87,215	全国連盟	公共交通費	77,960	3人
補填	85,645	85,645	本会計予備費	高速代	8,340	4人
				駐車代	6,300	5人
				日当弃当代	55,000	5人
				会議室代	4,320	540×8回
合計	224,860	224,860		合計	224,860	

2.2022年度座学入門教室

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
受講料	36,000	36,000	延べ36名	交通費	28,820	3人
補填	8,141	8,141	本会計予備費	日当弃当代	6,000	1人
				会議室代	3,780	540×7回
				事務費	5,541	コピー代
合計	44,141	44,141		合計	44,141	

3.2022年度「講習会」2022年3月6日

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
	-			講師料	9,000	3人
補填	9,800	9,800		事務費	800	コピー代
合計	9,800	9,800		合計	9,800	